

バラなど花きの生産が盛んな愛知県田原市（851億1,000万円）、3位は乳用牛部門でトップの別海町（668億2,000万円）だった。

農水省は「田原市は花きの大産地だが、上位をみると畜産が強い地域が多い」としている。

◆管内で生産される主要品目の全国ランキング
（かつこ内は産出額。単位：億円）

順位	豆類	イモ類	麦類	野菜	肉用牛	乳用牛
1	音更町 (37.3)	茨城・ 銚田市 (127.5)	帯広市 (18.9)	茨城・ 銚田市 (339.9)	宮崎・ 都城市 (205.7)	別海町 (638.8)
2	帯広市 (28.7)	千葉・ 成田市 (84.5)	網走市 (18.4)	愛知・ 田原市 (300.1)	鹿児島・ 鹿屋市 (189.8)	中標津町 (241.5)
3	芽室町 (24.2)	千葉・ 香取市 (72.5)	音更町 (17.8)	熊本・ 八代市 (250.2)	鹿児島・ 曾於市 (134.9)	標茶町 (234.8)
4	千葉・ 八街市 (21.5)	茨城・ 行方市 (71.6)	芽室町 (16.2)	熊本・ 熊本市 (240.5)	宮崎・ 小林市 (119.5)	栃木・ 那須塩原市 (217.6)
5	更別村 (20)	徳島・ 鳴門市 (46.5)	北見市 (14.8)	愛知・ 豊橋市 (198.9)	鹿児島・ 指宿市 (109.2)	清水町 (161.9)

猛暑 もういっしょ！ 高温少雨 畑作に打撃 葉菜で廃棄、収量4割減も

2021年8月5日

十勝管内では、7月中旬からの高温と少雨による記録的な渇水傾向で、野菜を中心とした農作物の生育に影響が出ている。収量減や品質低下が一部でみられ、農家からは「勘弁してほしい」との声も。適度な降雨を願いながら、「これ以上、被害が拡大しないように」と願っている。

幕別町五位の村田辰徳さん（39）の畑では2日、一部のハクサイを「重機でカットして、つぶした」（村田さん）。干ばつで肥料を吸えないところに、1日の激しい雨でカルシウムの吸収が追いつかず、葉先や結球内部に腐れが生じる「あんこ」と呼ばれる症状が出たため廃棄した。

「あんこ」が出たのは、6月上旬に苗植えした約0.2ヘクタール分で、ハクサイ畑全体の1割強。村田さんは「1日の降雨前の暑さが、相当こたえた」と話す。この時期の出荷は、漬物などの加工用がメイン。「これ以上の被害が出ないよう、おいしい野菜を届けられるよう、残りを順調に育てたい」。

葉菜類が主要品目の一つとなるJA幕別町では、ハクサイのほか、キャベツ、レタスにも影響が出ており、「生育が進まない、品質が悪化するなど、高温と干ばつの影響が出ている」（農産部）と話す。

キャベツやレタスの収量は例年の4割減とするが、「品不足とならないよう、生産者は作物のストレスを軽減させる地道な作業を続けている」と話す。

JA帯広大正の特産「大正だいこん」を栽培する帯広市大正町のオオネ道下農業は「ダイコンの成長が遅くなり、出荷計画に遅れも出てきている」と話す。

いわゆる「曲がり」による規格外も散見するが、「現段階では収量は確保できている」と強調。出荷のピークとなる9月に向け、「これ以上の干ばつは困る。何とか乗り切りたい」とする。

記録的な高温はハウス物にも影響が。音更町下士幌の川端伸吾さん（37）は「暑さのストレスで、ハウレンソウが伸びすぎてしまう」。遮光や散水による放射冷却で、ハウス内の室温を下げる対策を施すが、茎だけが伸びて出荷できないハウレンソウも。今後も続く暑さの予報に、「勘弁してほしいね」と漏らす。

十勝の主要4品目については「ジャガイモは、イモの数や肥大が少なくなるのを覚悟している」（管内JA幹部）とする一方、「ビートは変色と葉のしおれがあるが、収穫はまだ先。今後の雨に期待したい」（同）という状況だ。



高温と少雨の影響で、廃棄されたハクサイ
（8月4日、幕別町五位）